

よりよい授業をめざして ～授業改善推進プラン～

Ⅰ 年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> 音読を行うと、文字をまとまりとしてとらえることが難しく読む能力に個人差がある。 ひらがなやカタカナの定着、語彙数、文章を書く能力に個人差がある。 最後まで集中して話を聞くことについて課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個、ペア、全体など、読み方を工夫し、努力や上達を認め意欲を高める。 授業や宿題で、文字の書き取りや言葉探しの練習を取り入れる。書き方の手順、言語学習も段階的に指導し、表現に自信を付けさせる。 聞く必要のある場面を意識して作り、確認をしながら根気強く指導する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を使って解決する力に課題がある。 10までのたし算、ひき算の計算の習熟が必要である。 問題文の意味を理解して立式することについて課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習のプリントなどで様々な形式の出題に慣れさせる。 繰り返し計算を行い、見直しをする習慣を身に付けさせていく。また、計算チャレンジ（計算クエスト）を実施し、計算の基礎基本の習得を目指す。 場面絵を用意したり、動作化させたりすることで、場面の状況を想像しやすくさせる。また、文章題にたくさん触れて、立式に慣れさせる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組んでいるが、見たことや気付いたことを表現する力に個人差がある。 学校探検を通して、校内の様子を知り、学校の一員として学校生活の楽しさを味わうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で話し合った意見を参考にさせたり、ICT機器を使用して友達の気付きを紹介する時間を取ったりする。 人とのかわりが学校探検だけでなく、継続的に行えるように計画的に行っていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を感じ取りながら歌っている。歌詞の内容との関わりなどに着目し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができるようにすることが課題である。 拍にのってリズムを打ったり、運指に気を付けて鍵盤ハーモニカを演奏したりすることができる児童が多い。楽器の音色と演奏の仕方の関わりに気付いて演奏する技能について、更に伸ばしていく。 音楽の楽しさを感じ取って聴くことができるが、それを表現する能力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに意見や考えを伝え合う活動を通して、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関係についての気付きを共有するようにする。 鍵盤ハーモニカについては、個別指導の時間を確保するようにする。 教師や友達の演奏を聴いたり、奏法を試したりしながら、思いに合った表現をするために必要な技能を身に付けることができるようにする。 自分の考えを、体を動かす活動や言葉で伝え合う場面では、一人一人の感じ方のよさを積極的に価値付けするようにする。

図 画 工 作	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく創造活動に取り組むことができる。 ・どのような作品を作るかを悩み、作業にとりかかることができない児童に対しての手だてが必要である。 ・指先を思うように動かせない児童や道具の使い方に慣れていない児童に手だてが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味をもって、意欲的に最後まで取り組める題材を用意する。鑑賞活動を通し、自分や友だちの表現の違いや良さに気づき、次への創造活動につなげる。 ・指先を使う活動や、道具の使い方の学習を繰り返し行うことができるよう、時間をかけて基本的な道具を使う技能を育てる。
体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きで積極的に取り組む。 ・運動は、技能や体力、経験等の個人差が大きい。 ・活動に対して、みんなでやり方を工夫するような経験を意図的に取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めあての設定を工夫し、自らの成長が分かるような声掛けを行い、更に意欲を高める。 ・様々な運動経験ができるよう、計画的に進める。学習プロセスを工夫し、課題を解決していくことで苦手意識を和らげる。 ・運動遊びに取り組む中で、工夫や考えたことを他者に伝える活動や時間を設ける。
特 別 の 教 科 道 徳	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守る大切さを理解している児童が多い。 ・友達に対して思いやりある言葉をかけるなど、友達を大切し、すすんで関わろうとする児童が多い。 ・友達関係の中で、つい自分本位な行動や、気持ちをうまく表現できない児童への手だてが必要である。 ・トイレの使い方が乱れていたり、机に落書きをしたりするなど、公共の物や場所を大切にすることのできないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情を考える活動を通して、様々な立場の人の心情を考えることができるようにする。また、気持ちを文章や言葉に表現する活動をくり返し行う。 ・展開後半の、自己を見つめる時間を十分に確保する。教材を通して学んだことや感じたことと自身の生活が結びついていることを理解させる。

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字の定着が必要である。 拗音や促音を用いたり、順序を考えたりして文を書くことについて課題がある。 読書をすすんで行う児童が多いが、読む本のジャンルに偏りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で漢字練習時間を確保するとともに、デジタルドリルを活用し基礎学力の定着を図る。毎日の家庭学習と確認テストの実施で定着させる。 手本や構成表を基に、順序よく作文を書かせ、拗音や促音、かぎなどの使い方を習得させる。また、作文帳を活用し、学習したことを活かし日記の課題に取り組ませる。 図書などの読み聞かせを通して、様々なジャンルに触れられるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 量の感覚に関する経験が少なく、「長さ」や「水のかさ」で量を捉えることの定着が必要である。 ものさしや時計など、道具の扱いや目盛りの読み取りに課題がある。 計算力の定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> cm、m、L、mL、午前と午後、何分前、何分後などの言葉を意識して使わせるとともに、教師も日常的に「時間」と「時刻」を意識して使い分けたり、単位を使ったりする。 ものさしや時計の目盛りを読む機会を設定し、習得を図る。 東京ベーシックドリルや計算クエスト、デジタルドリルを活用し、基礎学力の向上を図る。また、九九検定を行い、繰り返し定着を図る。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 植物や昆虫の観察の際、成長や変化を具体的に捉える経験を積ませる必要がある。 活動や体験を通して得られた「気づき」に対する視点が少なく、気付く事柄の多さに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回との比較や触った感じ、形、長さ、色、においなど、具体的な観察のポイント（国語の「かんさつ名人になろう」を活かして）観察の視点を示し、五感を使って観察させる。 気づきの質を高めるために、視点を児童に提示し、表現の語彙を増やすよう促す。また、国語の学習と合科し、観察の視点を明確にさせる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 元気な声で楽しく歌うことができているが、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気づき、歌い方を工夫して表現することについては課題がある。 器楽については、鍵盤ハーモニカやミニキーボードの音色に興味をもって取り組む児童が多い。鍵盤ハーモニカは、息の使い方と音色の関わりを意識して演奏している児童もいるが、技能に個人差がある。 鑑賞では、自分の感じたことや気付いたことを言葉で伝えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いをもったり、歌い方を工夫したりする場面で、意見を出し合い、それを歌って試しながら学習する場面を多く取り入れる。また、自分の歌声を意識できるような声掛けを工夫する。 鍵盤ハーモニカの学習では、個別指導の時間を確保する。また、ICT機器を活用して運指を視覚的に分かりやすく提示したり、スモールステップで学習できるような楽譜を作成したりする。 曲想を表す言葉や〔共通事項〕などのキーワードを提示するなどして、語彙を増やしたり、自分の考えを表現したりすることができるようにする。

図画工作	<ul style="list-style-type: none"> • 材料や道具を工夫して用いる指導を充実させる必要がある。－ • 自分で作品の内容を想像することができるような工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 活動前にテーマに沿ったイメージを広げる時間を取り入れる。また、見通しをもって活動することができるように、事前に計画を練る時間を設定する。参考作品を見せたり、書画カメラで作業の様子を見せたり、児童同士の交流を学習者用端末を用いて行ったりし、イメージをもとに作品をつくることができるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> • 体を動かすことに対する意欲は高いが、多様な動きを多く経験させる必要がある。 • 課題解決に向けた活動に取り組み、技能を向上させることについて個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> • いろいろな動きが経験できるよう、多種多様な動きのある運動を取り入れる。 • 学習の振り返りの時間を設け、課題解決の手法が分かるようにする。また、友達の動きを見て取り入れたり、見本動画を見て、ポイントやコツを確認したりしていく。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> • 教材をもとに登場人物の心情を捉えられるが、「よりよい生き方」について自分の考えを持ち同じような場面に立ち会ったときに、行動し振り返ることに課題がある。 • 自分の考えをもったり、表現したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の気持ちや考えを伝え合ったり、ワークシートを読み合ったりすることで、自分の考えを深めることができるようにする。 • 役割演技で場面を再現するなど、自分の考えや行動について振り返ることができるようにする。

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習得に個人差がある。 文章の叙述を根拠に心情や様子を読み取る力に個人差がある。 書く意欲はあるが語彙が少なく、自分の思いを様々な言葉で書き表すことに課題がある。また、内容の中心を分かりやすく書くことに課題がある。 事柄の中心を考えて話したり、聞いたりする力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> なぞり書きや空書きで字形を丁寧に確認させ、ドリルのテストを用いて定期的に習熟の確認を行う。デジタルドリルも活用し基礎学力の定着を図る。繰り返し練習させ、学期2回の漢字50問テストで成果を確認する。 辞書を使用して語彙を増やしたり、文章の構成を理解させたりするような指導を行う。 日記を書く時間を定期的に作り、書き方を定着せたり、個別で書くことを指導できる時間を確保したりする。特に読み合いを日常的に行えるような環境を整える。 友達の発表の後に意見や感想を伝え合う機会を多く設定する。人の話に対して自分の思いや考えをもつことを意識させる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 見学や自分で調べる学習への意欲は高いが、学んだことを自分でまとめていく力を身に付けていく必要がある。 学習問題を基にして、自分で調べ学習を進めまとめていく、という社会科の学習方法の経験が不足している。 地図や資料から分かることを自分の言葉で書く力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞、リーフレット、ポスターなど、様々なまとめ方を経験させる。学年末には、学習者用端末を使い、スライドでまとめる経験をさせる。また、グループで話し合っまとめる機会を設ける。 問題解決型の学習プロセスを丁寧に指導し、学習問題作りや、学習計画作りを経験させ、主体的に学習する力を身に付けさせる。 少しずつ、地図帳を使う経験を積み重ねていく。また、学習者用端末でストリートビューやグーグルアース等も活用する。 写真やグラフ、文章等、様々な資料を読み取る際には、「比べる」「全体で見る」「部分で見る」など、読み取る視点を与え、資料ごとにどの視点が使ええるかを考えさせる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 学習中は学習内容をしっかりと理解している児童が多いが、学習後の既習事項の定着が課題である。 計算問題はできるが、計算の意味を説明する力に課題がある。 文章問題の題意を理解し、立式することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルや計算クエスト、デジタルドリルを活用し、基礎学力の向上を図る。 習熟度別でクラス分けをして、既習事項の復習をしながら本時の学習を行うなどスモールステップで進めたり、早めに進めて課題を増やしたりするなど、個に応じた指導の工夫をする。 問題を図や数直線に表すなど、文章問題の解き方を細分化してスモールステップで指導する。

理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察への意欲は高い。 ・知識や技能の習得が課題である。 ・昆虫や植物に対して関心がある児童が多い。 <ul style="list-style-type: none"> ・考えたことを言葉にする力については、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいをはっきりさせ、観察や実験の目的を常に意識して行えるように指導する。 ・観察や実験を行う際には必ず予想を立て、観察や実験の見通しをもたせてから行うようにする。また、日常生活と結び付けて考えられるように予想を立てるときに例を示す。 ・実演や動画をできるだけ多く見せて、理解を深めさせる。 ・対話的な学びを多く取り入れ、思考することに慣れさせる。
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに気付き、どのように表現するか思いや意図をもつことができる児童が多い。 ・リコーダーの学習では、タンギングや息の使い方を意識して演奏できる児童が増えてきた。 ・ハ長調の楽譜を見て表現することについて、楽譜を見ながら表現しようとする児童が多い。一方で、その技能の習得には課題がある児童もいる。 ・鑑賞では、曲想と音楽の構造を結び付けながら聴くことができる児童が多い。しかし、曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴いたり、それを言葉で表したりすることについては課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の曲の特徴への気付きを深め、歌い方を試すことで歌い方を工夫する楽しさを味わい、思いや意図をもつことができるようにする。 ・リコーダーの運指、奏法を繰り返し確認し、個別に指導する場面を確保する。 ・楽譜と音やリズムを関連付けて演奏できるよう、階名唱や記譜する活動を計画的に設定し、ハ長調の楽譜に慣れさせるようにする。 ・曲の特徴を比較しながら聴き、曲のよさについて考える手掛かりとする。また、曲想を表す言葉や〔共通事項〕の掲示物を活用して、語彙を増やし、自分の考えを言葉で表現できるようにする。
図 画 工 作	<ul style="list-style-type: none"> ・描いたり、作ったりすることへの関心や意欲が高く、授業を楽しみにしている児童が多い。 ・指先を思うように動かせない児童や道具の使い方に慣れていない児童が一部見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な作品見本や制作方法を見せてイメージをもたせ、創作意欲などを更に高めるようにする。 ・指先を使う活動や、道具の使い方の学習を、繰り返し行い、基本的な道具を使う技能を育てる。
体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことへの意欲に個人差がある。 ・友達と学び合う良さを実感できるよう、指導を工夫する必要がある。 ・めあてをもって学習をする意識付けが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて技能を高めるポイントを示し、さらに意欲をもって取り組めるようにする。 ・互いに教え合ったり、協力し合ったりして取り組めるようにする。 ・いろいろな動きを経験し、運動への意欲を高められるようにする。 ・学習者用端末や学習カードを活用し、めあてを立てたり、振り返ったりすることができるように工夫する。

<p>特 別 の 教 科 道 徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学んだ場面に共感して自分自身のこととして具体的に考える際、深まるような手だてが必要である。 • 模範的な考えを出すことはできるが、自分自身の行動を振り返り、内省的に深く考える力を身に付ける必要がある。 • 多様な意見が共有できるような手だてが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 葛藤し、迷う場面のある題材を活用し、自分だったらどうするか、なぜそうするのかを考え、考えたことを交流する活動を行う。また、ロールプレイ等を取り入れる。 • 模範的な考えに対し、本当にそうなのか、別の条件だったらどうなるのか、児童の心を揺さぶる発問をして内省的に自分を見つめるきっかけを作る。 • 全員が自分の考えをもって共有しながら授業に参加できるよう、特に主発問では、書く時間を十分にとる。書き終わったら、友達と自分の考えとを比較し、交流できるよう、見合う時間を設ける。
<p>外 国 語 活 動</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 授業を楽しみにしている児童が多い。 • ALT の発音を聞くことで、正しい発音に耳が慣れるようになってきた。 • 習ったフレーズを授業以外でも言っている児童がおり、興味や関心は高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 数字や曜日、気持ちを表す言葉など、日常でも使うような簡単なものから取り扱うようにする。 • まずは音で覚え、何度もやりとりを通してアウトプットできるようにしていく。 • 学習した言葉を使った、誰もが楽しむことができるゲーム等を活用して、発話する機会を作る。 • 毎回、チャンツを取り入れ、話型を覚えさせる。

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いを表現することに課題がある。 漢字の習得に個人差がある。 文章の叙述を根拠に心情や様子を読み取る力を身に付ける必要がある。 語彙が少なく、自分の思いを様々な言葉で書き表す力を身に付ける必要がある。 文章の組み立てを考え、内容の中心を分かりやすく書く力を身に付ける必要がある。 事柄の中心を考えて話したり聞いたりする力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ペア学習や話合いの活動を定期的に取り入れる。 なぞり書きや空書きで字形を確認させ、ドリルテストを用いて定期的に習熟の確認を行う。また、ミニテストの練習の機会もつくる。学期2回の漢字まとめテストで成果を確認する。 叙述や言葉の有無によって受け取り方がどう変わるかを考えさせ、叙述の有用性を確認させる。 国語辞典を日常的に使用し、語彙を増やす。 構成表を基に文の組み立てを考えさせ、下書き、推敲、清書、交流などのように、計画的、段階的に指導する。テーマやポイントを提示した日記を課題として設定する。 注目すべき視点を確認し、要点を捉えて話したり聞いたりできるように指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料から読み取って、まとめる活動への意欲が高い。 見学や自分で調べる学習への意欲は高いが、学んだことをまとめる段階での粘り強さや発展させる力に個人差がある。 学習する社会事象について関わりのあるものとないものとの区別がつきにくく、適切に課題を設定する力を身に付ける必要がある。 地図や資料を読み取る力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末を用いてまとめる活動を繰り返し行う。 グループ活動をすることで助け合い学び合う力を身に付けさせる。また、単元の終末にノートでまとめを行い、学習内容の大切なことや感じたことなどをまとめる力を養う。 調べたい事柄をグループ分けしたり、取捨選択したりしながら、課題となりうる疑問を整理させ、適切な課題設定ができるように指導する。 見学時に実際に通った道や見学場所を地図と対応させて確かめたり、地図帳や学習者用端末のストリートビューやグーグルアース等を活用して地図に慣れさせたりさせる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項や基礎基本の学習が定着している児童と、そうでない児童の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリルに繰り返し取り組んだり、学習者用端末を活用したタブレットドリルに朝学習で取り組んだり、繰り返し行うことで定着できるようにする。 計算クエスの年間実施を通して、基礎的な計算力の礎を作る。 習熟度別のクラスで、既習事項の復習をしてから本時の学習を行うなど、スモールステップで進めたり、早めに進めて課題を増やしたりする

	<ul style="list-style-type: none"> ・定規や分度器、コンパス等、用具の扱いに慣れさせる必要がある。 	<p>など個に応じた指導の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作図の学習の場面では、丁寧に指導し、作図する機会をなるべく多く設け、用具の扱いに慣れるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察などに意欲的に取り組むことができるが、実験や観察の目的や操作手順などについて丁寧な指導が必要である。 ・予想や考察などの自分の考えを書く場面では、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が追及したくなる問題が作れるように、事象提示のしかたを工夫する。また、実験の見通しをもたせて、実験や観察を行わせる。 ・小グループでの話合いの時間を設け、自分の考えを明確に持たせてから書かせるようにする。また、板書の量やノートに書き写す量を最小限にする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いて曲の特徴を捉えたり、呼吸や発音に気を付けながら歌ったりすることができる児童が多い。しかし、曲想にふさわしい表現を工夫することや、互いの声を聴き、声を合わせて歌うことには課題がある児童もいる。 ・和楽器を含め、様々な楽器の音色や響きと奏法との関わりに興味を示す児童が多い。鍵盤ハーモニカやリコーダーについては、主な旋律の歌声を合わせて演奏することができた。しかし、リコーダーの基礎的な奏法に課題がある。 ・リズムの組合せを工夫したり、音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりすることはおおむねできている。しかし、音楽の仕組みを生かしてつくるよさや面白さに気付くことに課題がある。 ・曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くことができる児童が多い。曲全体のよさを味わって聴くことについて、言葉で表現する力には個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや意図をもって歌うことができるよう、児童が気付いた曲の特徴を基に、意見を出し合ったり、実際に歌って試したりしながら表現を工夫する時間を十分に確保する。また、児童自身が声を合わせて歌えているか気付くようにするために、互いの声を聴き合う場面を増やしたり、教師が児童の表現の高まりを積極的に価値付けたりする。 ・リコーダーの運指や息の使い方などについては、個に応じた指導の場面を計画的に設定していく。 ・音やフレーズのつなげ方や重ね方に関わる活動を常時活動に取り入れ、様々な重ね方とそのよさを実感できるようにする。 ・児童のつくった音楽を価値付けて全体で共有し、児童自身でよさに気付くことができるようにする。 ・学習を振り返りながら、着目する〔共通事項〕を確認したり、重要な言葉を穴埋めにしたりするなど、ワークシートを個に応じて工夫する。また、書いた文章を、学習者用端末を活用して共有し、友達の考えから学んだり、自分の考えを広げたりすることができるようにする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・描いたり、作ったりすることへの関心や意欲は高く、落ち着いて活動できる。授業を楽しみにしている児童が多い。 ・素材や画材の性質を活かした表現や、適切な道具の使い方、画面に合わせてバランスよく表 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な作例や制作方法の鑑賞を通して、理解とイメージ、創作意欲などを高めるようにする。 ・各自の考えを交流して課題意識を高め、材料の性質を活かしたバランスのよい表現、道具の特

	現することに課題がある。	徴を理解した安全な作業を身に付けさせる。
体 育	<ul style="list-style-type: none"> • 技能面での差が大きくなっている。また、体を動かすことへの意欲にも個人差がある。 • めあてをもって学習をする意識付けが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 思考する場面を増やしたり、教え合いによって技能の向上を狙う場面を意図的に取り入れたりする。 • 児童の実態に応じて技能を高めるポイントを示し、さらに意欲をもって取り組めるようにする。 • 学習者用端末を活用して動きのイメージをもたせるとともに、めあてが立てやすい形式の学習カードを利用する。学習者用端末や学習カード等を適宜用いて振り返るよう指導する。
特 別 の 教 科 道 徳	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の考えを意欲的に発表する児童が多い。 • 学んだ場面に共感して、自分自身のこととして具体的に考える際、深まるような手だてが必要である。 • 模範的な考えを出すことができるが、自分自身の行動を振り返り、内省的に考える力を身に付ける必要がある。 • 多様な意見が共有できるような手だてが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • ペアやグループなど、スモールステップで自分の考えを伝える場面を意図的に設定し、意見を言う機会を設ける。 • 葛藤し、迷う場面のある題材を活用し、自分だったらどうするか、なぜそうするのかを考え、考えたことを交流する活動を行う。また、ロールプレイ等を取り入れる。 • 模範的な考えに対し、本当にそうなのか、別の条件だったらどうなるのか、児童の心を揺さぶる発問をして内省的に自分を見つめるきっかけを作る。 • ミニシートに書いた自分の考えを各々が黒板に貼り移動や書き足しをしたり、学習者用端末を用いて考えを共有したりする活動を通して、各自が自分の考えをもって授業に参加できるようにする。
外 国 語 活 動	<ul style="list-style-type: none"> • 活動的な学習に対して、意欲的に発音をしたり、ゲームに取り組んだりすることができている。 • 授業を楽しみにしている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> • 数字や曜日、気持ちを表す言葉など、日常でも使う簡単なものから取り扱うようにする。 • 英語の簡単な歌を聴いたり、ビンゴをしたりするなど、誰もが楽しむことのできる活動を中心にする。

よりよい授業をめざして ～授業改善推進プラン～

5年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字ドリルを活用し、小テストを繰り返し行うことで定着に努めているが、漢字を正確な形で捉えることに課題がある。 物語文に対する読み取りの力が高い一方で、説明文等を論理的に読み取る力で個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字スキルの速読を学習の導入で行い、漢字に触れる機会を増やす。 型を示すことで説明文における文章構造の理解を促す。また正確に言葉を読み取るために「どこに書いてあったのか」「なぜそう思ったのか」などの発問で常に文章に立ちかえらせるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料を正しく読み取ったり、読み取った情報を結び付けたりすることに課題がある。 問いを正しく読み取り、学習内容を用いて問いに対して正対した回答をすることに課題がある。 学習課題を自分のこととして捉え、ICT 機器を用いて意欲的に調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み方や、そこから分かることをクラス全体で確認する時間を設ける。読み取りやすい資料から順番に提示する。 1 時間の学習で学んだことを自分でまとめる活動を行う。また、まとめ方が上手な児童を紹介しながら、まとめ方を知るようにさせる。 ICT 機器を活用した活動を多く取り入れ、学習に主体的に取り組むことができるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎、基本の学習や既習事項が定着している児童と、していない児童の個人差が大きい。 課題解決の際、自分の考えをもって問題を解くことができるが、発展的な問題に対応できる力を身に付ける必要がある。 問題を解くことができても、論理立てて説明する力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度グループ分けのプレテストで、その単元に合った復習問題を出し、既習事項の定着度を調べ、個に応じた指導をしていく。 課題解決ができるように、個人、全体で考える時間を授業の中に設ける。 授業のはじめに復習プリントなどで既習事項を活用した問題を繰り返し練習し、定着できるようにしていく。また、前時に行った学習の内容を復習する練習問題もプリントに加え、取り組ませる。 図や式、言葉を用いて考えをノートに書かせ、実物投影機などに映して分かりやすく説明できるようにさせる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験を行うことへの意欲が高い。 実験の目的を意識して結果をまとめることについて課題がある。 用語や器具の操作などについての知識や技能を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験前に目的を言語化させ、結果の見通しをもたせることで、実験の目的への理解を深める。 考えを説明したり、話し合ったりする場面では意識的に用語を使うように指導し、用語の活用の仕方と共に理解を深める。
	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解することはおおむねできている。しかし、どのように歌うかについて思いや意図をもつことや自然で無理のない響きのある声で歌う技能、各声部の歌声や全体の響きを聴いて、声を合わせて歌う技能については個人差が大きい。 曲想にふさわしい音色や響きを意識して、息の吹 	<ul style="list-style-type: none"> 曲の特徴にふさわしい表現を実現するために、児童が歌い試して表現のこつを見付けたり、教師がいくつかの方法を提示して選んで取り組んだりするようにする。また、学習者用端末に録音し、客観的に聴くことで、発声や声の響きを意識し、声を合わせて歌うよさを感じ取ることができるようにする。 自分の演奏している音への意識を高め、音を合わせ

音楽	<p>き込み方やタンギングに気を付けてリコーダーを演奏する児童が増えた。しかし、互いの音を聴き、音量のバランスや音色など、音を合わせて演奏することには課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽づくりでは、楽器の音の響きやそれらの組合せの特徴が生み出すよさや面白さを理解して表現することができた。音楽の仕組みを用いてまとまりのある音楽をつくる学習では、どのようにつなげたり、重ねたりするかについて課題がある。 鑑賞では、曲想及びその変化と音楽の構造とを結び付けて聴いたり、曲や表現のよさを見だし、言葉で表現したりすることについては個人差がある。 	<p>て演奏する喜びを実感できるよう、音色や音量のバランスに気を付けて友達同士で演奏を聴き合ったり、聴いた演奏について意見を伝え合ったりする場面を意図的に設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽の仕組みを生かしてつなげたり、重ねたりする活動を常時活動に取り入れる。また、音楽を構成する際に、試行錯誤する時間を十分に確保し、よさや面白さを実感できるようにする。 学習を振り返って音楽を形づくっている要素の働きが生み出す効果について確認したり、着目して聴いた〔共通事項〕をキーワードとして示すなどして書く観点を明確にしたりする。また、学習者用端末の共有機能などを活用し、友達と書いたことを交流することで、自分の考えと同じ部分や違いに気づき、考えを広げることができるようにする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 描いたり、作ったりすることへの関心、意欲は高く、集中して取り組むことができる。 素材や画材の性質を生かした表現や、適切な道具の使い方、画面に合わせてバランスよく表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な作例や制作方法の鑑賞を通して、理解とイメージ、創作意欲などを高めるようにする。 各自の考えを交流して課題意識を高め、材料の性質を活かしたバランスのよい表現、道具の特徴を理解した安全な作業を身に付けることができるようにする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習や裁縫などに意欲的に取り組むことができている。 実技に個人差がある。 学習した内容を生活の中で生かす力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全面に配慮しながら、友達と役割を意識して取り組んだり、協力し合ったりし、各々の活動時間を十分にとる。 各自の課題について考えさせ、その解決に向けて実践につなげられるようにするため、練習する時間を多く取る。 学習した内容を生活の中で実践できるよう、声をかけたり、課題を出したりする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ボール運動や陸上運動などに意欲的に取り組むことはできているが、集団行動に課題がある。 学習の仕方や作戦を立てるなどの思考・判断・表現の面で指導が必要である。 知識・技能や思考面での個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団行動では、統一の美しさや揃った時の心地よさを児童自身が感じられるように指導をする。 課題解決的な学習を進めることにより、一人一人のよさやチームに合った作戦を考える場面を意図的に取り入れる。 易しいルールを設定したり、恐怖感を減少させる用具を取り入れたりするなど、参加しやすくなるように工夫する。また、体育ノートにめあてや振り返りを書くことを通して、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

<p>特別の教科 道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 言葉遣いの乱れや、優しさ、思いやりある行動について、指導する必要がある。 • 自分の立場にたって物事を考えることに課題がある。 • 学んだことと自分自身の行動を結び付けて考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 気持ちや考えを伝え合ったり、自分自身の行動を振り返ったりして、道徳的価値について考え、今後に生かすことができるようにする。 • その場面ごとに児童自身の問題として考えさせ、解決していくように働きかける。 • 日常の生活指導や、他の教科の学習の中にも道徳的要素は含まれているため、それを重視し、継続的に指導していく。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ゲームやクイズに意欲的に取り組むことができる。ALT の発音をよく聞き、練習することができる。 • ペア学習などで、積極的に自分から友達に話しかけるなど、授業に向かう姿勢が見られる。 • 英語で会話しながらコミュニケーションを深める力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • ALT を活用し、指導者が発音したり見本を見せたりして、更に楽しく活動に取り組むことができるようにする。チャンツなどを活用し、反復して英単語やフレーズを口に出させることで、イントネーションやリズム感を養っていく。 • ペア学習やグループ学習などを通して、友達と話し、アウトプットする機会を設ける。 • どのような英語をどの場面で使うのかをしっかりとつかむことができるように、その都度コミュニケーション活動を意図的に展開していく。

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを文章で書くことに対する苦手意識をもつ児童が目立つ。また、構成を考えたり、表現の工夫を身に付けたりすることに課題がある。 要旨をまとめる能力の個人差が大きい。 文章の中で適切に漢字を使ったり、語句の意味を正確に理解することに課題がある。 全国学力・学力状況調査では、「目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるか」という問題で、当てはまるもの内容を正しく選択したり、自分で考えを書いたりするところに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 視写を通して文章構成を学んだり、表現の工夫を身に付けたりする。 文章から重要な語を抜き出す練習を繰り返し行い、その語をつなげてまとめる練習や互いの文章を見合う活動を多く取り入れる。 これまでの既習漢字を忘れていることが多いため、復習も取り入れながら定着させていく。 漢字の学習を体系化し、一人で進められるように指導する。小テストをこまめに行い、定着を図る。熟語調べも積極的に行わせる。 文章の構成について考えることができるよう、説明文を読む機会を多く取り入れ、必要な情報を見付ける活動に慣れさせる。 単元末には、学習感想を書く活動を取り入れ、学んだことを生かして書く習慣を付ける。また、友達の感想等にも触れ、考えや書き方の幅を広げる機会をつくる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取ることはできるが、読み取った情報から自分の考えをもつことについて課題がある。 基礎的な知識の定着に課題がある。 単元ごとのまとめで自分の意見を書く力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 注目する資料を明確にする。読み取った情報から何が分かるか、ペアやグループで考えさせる時間を設ける。 資料から何が分かるか予想する時間を設ける。 用語が出てきたときに学習者用端末を使い調べる等、内容と共に覚えられるようにする。 単元ごとのまとめは、まとめ方のひな型を示し、重要語句を埋める、書き出しを指定するなど、段階を追って自分でまとめられるようにしていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な学習の習熟度に個人差が大きい。 基礎的な内容が定着している児童が多い反面、応用問題や思考力を問われる問題には課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題とともに、公式を繰り返し使ったり、振り返ったりする時間を設ける。 レディネステストで、児童の習熟度を診断し、実態に応じたグループ編成や授業展開を行う。 既習事項を生かして解く問題を様々な解き方で解き、ペア学習などで解き方などを説明し合う経験を積む。 問題文を正確に読む練習を積み、問われていることが何かを考える習慣を付ける。 基礎的な内容の定着を確実にするために、計算ドリルを理解するまで取り組めるようにする。正確さとともにある程度のスピードで取り組むよう声掛けし、繰り返し練習させる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査では、基礎的な計算、データの読み取りなどがよくできていた。その反面、図形や測定の問題の正答率が落ちていた。また、選択問題より、記述問題の正答率が低かったため、書くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形や測定の学習の基礎的な内容の定着を図り、既習事項を生かして問題を解く練習を積み重ねる。 ・問題提示などを工夫し、問題場面を想像しながら問題解決に取り組めるようにする。 ・問題解決の仕方を互いに発表し合うことで、様々な解き方から、自分に合った解き方を見付けられるようにする。 ・各領域の授業のはじめに前学年までの内容を振り返る時間を設定し、反復して計算の仕方や図形の定義をおさえられるようにする。 ・東京ベーシックドリルなどで、既習事項を繰り返し練習し、基礎基本の習得を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や技能について理解している児童が多いが、理科への興味や関心を高める必要がある。 ・直接目で見ることのできない事象（電気・電磁気 水蒸気など）について考えたり理解したりする力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活とのつながりや社会との関係を示し、理科を学習することの価値を実感させる。 ・単元の最後に振り返りの時間を設けて、分かるようになったことが実感できるようにする。 ・モデル図や掲示資料などを工夫して、目に見えない現象をイメージできるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて理解し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる児童が多い。しかし、自然で無理のない響きのある歌い方で歌声を響かせて歌うことや、互いの歌声を聴いて、声を合わせて歌ったりすることに個人差がある。 ・器楽では、楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりを理解し、音色や響きに気を付けて楽器を演奏したり、各声部の音を聴き、声を合わせて演奏したりすることができる児童が多い。しかし、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことについては課題がある。 ・鑑賞では、曲想及びその変化と音楽の構造とを結び付けて聴くことができる児童が多い。曲や演奏のよさを見だし、言葉で表現することについては個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや意図に合った表現をするため、曲想に合った歌い方を、児童が主体的に探っていく時間を十分に確保するようにする。また、一人一人が自分の歌声に自信をもつことができるよう、児童の表現を積極的に価値付ける。また、全体の響きを聴いて歌声を合わせて歌うことができるよう、歌声を学習者用端末に記録して自分たちの歌声を客観的に聴いたり、互いの歌声を聴き合い、意見を伝え合う場面を意図的に設定したりする。 ・どのように演奏するかについて思いや意図をもつために、曲の特徴への理解を深め、音楽を形づくっている要素の働きによって生まれる効果を音で表現できるよう表現方法を様々に試す活動を計画的に設定する。 ・互いの演奏を聴き合い、意見を伝え合うなど言語活動と表現活動の往還を図る時間を十分に確保ようにする。 ・児童が曲や演奏のよさについて自分の考えを書くことができるよう、体を動かす活動を適宜取り入れ、音楽を形づくっている要素の働きが生み出す効果を実感したり、ワークシートや学習者用端末で、前時までの学習を振り返ったりするようにする。また、学習者用端末等の共有機能を活用し、友達と書いた内容を交流することで、自分の考えとの共通点や相違点に気づき、考えを広げることができるようにする。

図 画 工 作	<ul style="list-style-type: none"> ・描いたり、作ったりすることへの関心や意欲は高く、落ち着いて活動することができる。 ・素材や画材の性質を活かした表現や、適切な道具の使い方、画面に合わせてバランスよく表現する力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な作例や制作方法の鑑賞を通して、理解とイメージ、創作意欲などを高めるようにする。 ・各自の考えを交流して課題意識を高め、材料の性質を活かしたバランスのよい表現、道具の特徴を理解した安全な作業を身に付けさせる。
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した知識を実生活で活用することに課題がある。 ・日常生活の中で、学習内容を実体験することに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で活用できるような授業を展開し、振り返りや各自の課題を考えさせる。児童の身の回りから教材を探し、授業に生かすようにする。 ・実習後は、各自が設定した課題に取り組みせ、家庭での実践に繋げられるようにする。 ・実習や体験だけでなく、動画を生かした授業を展開することで、自身の生活に生かすことができるようにする。
体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きな児童が多いが、体を動かすことに抵抗がある児童もいる。 ・毎時間の課題を意識して、学習に取り組む児童が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上運動やボール運動など様々な運動を行い、体を動かすことの楽しさを味わわせていく。 ・個々やチームの課題を解決するための場や時間を設定し、より高まるよう指導していく。
特 別 の 教 科 道 徳	<ul style="list-style-type: none"> ・考えようとする意欲に差が大きい。 ・考えたことと自分自身の行動を結び付けることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の世界感に入れ込めるよう教材提示の工夫をする。また、発言しやすい雰囲気をつくり、なるべく多くの児童から意見を引き出せるようにする。 ・自己を見つめる時間を設定し、これまでの経験を想起させながら、日常生活と結び付けて考えられるようにする。
外 国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の授業に苦手意識をもっている児童が多かったが、意欲的に取り組む児童がだんだん増えてきた。 ・発音練習や発表では声をあまり出さない児童がいるので、個別に声掛けが必要である。 ・単語を書く力を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、指導者が率先して英語を発音したり、身体表現をしたりして、更に明るい雰囲気をつくる。 ・楽しく話すことに重点を置き、基礎的な知識を伸ばす活動を繰り返すことで、中学校での学習につながるようにしていく。 ・中学校でも小学校で習った単語を使用するため、小学生の内から単語を書く練習をしたり、何度も発音したりしていく。